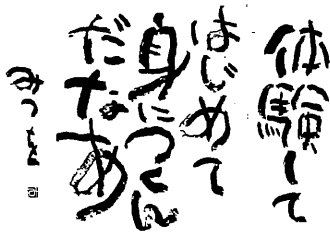


さくら第549号

令和 7年9月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬 重雄
 春江町境 17-7・TEL51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp

『^{そな}備えあれば^{うれ}憂いなし』

「天災は忘れた頃にやってくる」と物理学者で随筆家の寺田虎彦が述べているように、ある日、ある時に突然襲ってくる災害にどれほど備えているかは疑問符が残ります。

思い起こせば、福井大地震が1948年6月28日午後4時13分に発生。震度6は当時の震度階級では最大でした。

1995年1月17日5時46分52秒に阪神・淡路大地震が発生し、マグニチュードは7.3。

2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災は福島第一原子力発電所事故が影響し、今なお傷跡が深く全面的に安心安全とは言い切れないようです。

2016年4月14日21時26分発生の熊本地震があり、熊本城の石垣が大きく崩壊。能登半島地震は2024年1月1日16時10分に発生し、元旦の気分が瞬時にして吹っ飛び、揺れる部屋で立ちすくんだ記憶は今も脳裏から消えません。これらの大地震も、「喉元過ぎれば熱さを忘れる」の例えもあるように、いつの間にか忘れていきます。

世のなかで怖いものは「地震・雷・火事・親父」といわれていましたが、今の時代では大きく様変わりして、怖さの対象が違うようです。しかし、突然発生する地震の恐怖だけはいつの時代になっても変わらないというより、高層ビルが並び、地下鉄が張り巡らされた都会ではさらに危険度が増しています。

ある講演会で講師が「災害大国ニッポンいまできること、備えておくべきことは何か？」と題して約1時間にわたり話されました。

まず「居安思危(きょあんしき)・思測有備(しそく

ゆうび)・有備無患(ゆうびむかん)」という中国の歴史書(紀元前562年・春秋左氏伝)にある内容を話し、災害に対する心構えを述べました。

人間は嫌なことはすぐに忘れたい気持ちがあり、そこから油断が生ずる。ゆえに、起きたら嫌なことを予測し察知し判断をして具体策を講じることが必要といえます。

「事前の一策は事後の百策に勝る」というように、何か災害が発生してからあわてて百の対策を考えるより、ふだんの時から、危険が生じたらどのような対応をするのがよいかの1つの対策を考え、実行することが大事です。

福井商工会議所では平成16年7月に集中豪雨で被害にあったことから以後の毎年7月に水害対策訓練を行い、1階のドアの外に防止板をはめ込む訓練を行います。

消防訓練では自営消防団が組織され、各フロアごとの責任者が決められ消防署員の指導のもとに8階から1階までの階段を使つての訓練を年に2回行っています。

館内の防火設備のメンテナンスを行い煙探知機の作動に支障がないかなどを確認。出火場所も毎年替えて行い、非常灯がチカチカすることで知らせることや、消火栓の使い方も行うなど実際の行動につながるような訓練を実施しているとのこと。

なお、福井商工会議所ビルは耐震基準が高く、市内のビルが全部倒壊しても、福井商工会議所は安全であり、住民の避難場所にも指定されています。

もし、検定試験や競技大会、はじき初めなどで地震が発生しても、机の下に隠れるなどで安全を確かめてから次の行動に移ります。「有備無患」は、備えあれば憂いなしということです。ですから、試験や大会でよい成績をだすためには、ふだんからどのような気持ちと行動をするのがよいかを考え、実行しましょう。

いつもきれいに削った鉛筆を3本は持っています。簡単にできる事を一つずつ準備してください。先が丸くなった鉛筆で書いた数字はダメです。その前に鉛筆を忘れない事です。

炎天(えんてん)の
 地上花(ちじょうはな)あり
 百日紅(さるすべり)
 季語(きご) 百日紅(さるすべり)
 高浜(たかはま)虚子(きょし)
 炎天下(えんてんか)の地上(ちじょう)にも鮮(あざ)やかな赤(あか)い百日紅(さるすべり)の花(はな)があるのだ。